

# 高道

## 明日から冬休み

本日、後期前半の終わりの会を行いました。明日から冬休みです。冬休み中は、年末年始に関わる様々な行事等があるかと思えます。コロナ禍ではありますが、できるだけ子どもたちを「人・もの・こと」と触れさせ、多くの体験をさせて下さい。子どもたちの貴重な成長の糧となります。



さて、本校では、11月・12月を人権教育月間としております。先月の25日には授業参観も行いました。また、去る17日には校内人権集会を行い、各学級で学んだことや話し合ったことを発表しました。

そこで、本日の終わりの会では、以下のような話をしました。

今日は後期前半の終わりの日です。後期もたくさん経験ができました。1年生から4年生のみなさんは見学旅行。とても行儀が良く、立派な態度で見学ができましたね。5年生のみなさんは菊池少年自然の家での体験活動。川でつかみ取りをして、自分でさばいたニジマスはおいしかったですね。そして、命の大切さについても学びましたね。また、命の大切さといえば、6年生も修学旅行で戦争の悲惨さを感じることで、改めてそのことについて学んだことと思います。



その他にも、芸術鑑賞教室、芋掘り、持久走大会などもありました。

さらに、先日は人権集会もありました。11月から12月にかけて、それぞれのクラスで、友達のこと、クラスのこと、そして、自分のことを見つめる学習をしてきました。校長先生は、みんな仲良くしてくれるのが一番うれしいです。誰かが、寂しい思いや辛い思いをしているのはとっても悲しいです。そして、いじめなんか、絶対許しません。だって、校長先生にとってはみなさん一人一人が大切な存在なんです。

校長先生は、生き物が好きで、子どもの頃からよく観察をしていました。先生が子どもの頃は、学校に鶏小屋がありました。そして、決まって羽がむしられたような鶏がいました。その様子をよく見てみると、一羽強い鶏がいて、その鶏を追いか回り、脅したり、つついたりしているんですね。また、金魚など他の生き物でも、そんな様子を見たことがありました。そんなとき、先生は、生き物は自分の縄張りを守ったり、集団の中で自分の方が強いんだぞ、偉いんだぞと、自分の地位を守るため、もともといじめをするものかなと思っていました。



でも、同じ生き物である人間は、さらに頭や心が進化した生き物だから、人を思いやったり、尊重したりできるのかなと思っていました。

ところが、去年、先生は驚くべきものを見ました。先生は池で鯉を飼っているのですが、そこで鯉の赤ちゃんが生まれました。すくすく成長して15センチくらいの大きさになった頃、その中の一匹が池から飛び出してぐったりしていました。傷ついて元気もなかったのもうダメかなと思いましたが、まだ生きていたので池に戻してみました。



それからずいぶん経って、あの鯉はどうしているかなと探してみると、池の底に沈んでじっとしていました。片方のひれが動かず、泳げないようでした。そのころには、一緒に生まれた他の鯉たちとは、見ただけで大きさが違うのが分かりました。これじゃ、浮いているえさも食べられないし、かわいそうだな。どうしたらいいんだろうと思っていたその時でした。一匹の大きな鯉が寄ってきて、何と、背中に乗せて、浮き上がってきたのです。驚いたのなんのって。



生き物の中で、チンパンジーなどのお猿さんやイルカなど脳が発達していて、人間に近い動物にはそういう心があるとは思っていましたが、まさか、鯉などの魚がそんなことをするとは思っていませんでした。先生は、この話をできるだけ多くの人に伝えたいと思いました。そして、人間だけでなく、生き物の思いやる心伝えたいと思いました。

私たちは、人間です。つつい失敗して人を傷つけてしまうこともあります。先生もそうです。でも、もっともっと思いやりを持って生きていきたいですね。それが、人間です。